

多彩なゲストスピーカーを招き、航空業界の最新事情を伝えると共に、学生の将来の参考になる講義を目指す

2018年度秋学期ティーチングアワード受賞

対象科目：最新航空産業概論2

全学部全学年を対象に幅広い学びの機会を提供する、グローバルエデュケーションセンター（GEC）の一科目である「最新航空産業概論2」。全日本空輸（ANA）の社員である早稲田大学非常勤講師・鈴木直也先生が担当し、学生は航空業界の基礎知識や最新のトピックなど、航空業界の全体像を学んでいく。

ほぼ毎回、関連業界からゲストスピーカーを招くという特徴があるこの講義の狙いや、効果的な授業にするための工夫を聞いた。



鈴木 直也

早稲田大学非常勤講師

多くの学生が興味を持てるように、
「浅く広く」全体像を伝える

全日本空輸との提携講座として実施されている「最新航空産業概論」。その前身となる科目が、2008年に始まった「航空機オペレーション概論」で、当初は航空業界で働きたいという人材の育成に役立たいという目的が強かったという。

「ただ、実際に講義をする中で、特定の職種に限らず社会に出る前に航空業界について広く知っていただいて、学生の皆さんの参考にしてもらいたいと方向性の変化していきました」。

鈴木先生が初めて担当した2016年度からは、さらに内容を多少見直して、「浅く広く」を目指すようになったという。具体的には、今までより内容を平易に、同時にそれまで以上に幅広いテーマを取り上げるようにした。「航空業界は、非常に専門性の高い仕事が多いのですが、専門的になればなるほど理系寄りになり、話が難しくなります。ただ、本来の目的は、航空業界全体を知ってもらい、興味を持ってもらうことです。さらに、一つの業界にもさまざまな仕事があるという社会

の構造にも気づいて、学生の将来の参考にしてほしい。そうした思いから、人選やテーマを見直しました」。

クォーター制で、受賞の対象となった「最新航空産業概論2」と同じく「1」を合わせた16回のうち、13回は航空業界に関わるさまざまな分野の第一人者をゲストスピーカーに招いているのが科目の大きな特徴だ。学生からの人気は非常に高く、2018年度からは定員をそれまでの150人から180人へと増やしたが、それでも募集人数を大幅に上回る希望者がいるという。

映像やクイズの時間を挟んで、
90分の講義を飽きさせない工夫も

今回の受賞の参考となった学生授業アンケートでも、「総合的に見てこの授業は有意義だった」という回答が、6.0満点中5.9点にも上った。その大きな理由として、鈴木先生はやはり多彩なゲストスピーカーの存在を挙げる。「パイロットやキャビンアテンダントをはじめ、たとえば宇宙開発やミドリムシを使った航空機燃料など、『最新』という科目名の名前も意識して、幅広いところからスピーカーを探しています」。依頼の際には、「採用

活動になっては困りますが、御社を宣伝していただいて構いません」と付け加えているそう。ゲストに、講義の目的を把握した上で自由に話してもらうことで、通り一遍ではなく、その企業が航空業界でどんな役割を果たしていて、その仕事にはどんな魅力があるのかを、自身の言葉で具体的にイキイキと話してもらうことができているという。

また講義の間には、途中で映像を流したり、クイズ形式の質問時間を取ったりといった工夫もしてもらっているとのこと。「話だけが続くと、途中で少し飽きてしまうからです。たとえば、私が担当した航空機の歴史がテーマの講義では、航空機製造の過程を早回しで見せる2〜3分の映像を用意しました。また、ゲストスピーカーによっては、クイズに答えた学生に自社のステッカーなどちょっとした景品を渡しています。こうした工夫で講義にメリハリが生まれるのは、非常によい効果だと考えています」。

講義の後には、ゲストスピーカーに課題を出してもらい、学生たちに毎回400文字程度の小レポートを提出させている。小レポートはゲストスピーカーに渡しているそう。「ゲストスピーカーの方々には、無償で講義を引き受けていただいています。彼らにとっても何か得るものがあればということで、学生の感想や要望、提言などをレポートの形でゲストスピーカーにフィードバックしています」。

航空業界に限らず、 社会を知ることが学生にとってプラスになる

鈴木先生は、航空業界全体を知ってもらうだけでなく、グローバル時代の社会にこれから出ていこうという学生にとって意義のある講義になることも強く意識している。「あるゲストスピーカーが、海外でこうした講義をすると終了後に学生がネームカードをくださいと並びますが、国民性や文化の違いから日本ではあまり見かけませんね、とお話されました。すると、翌週からゲストス

ピーカーのところにネームカードをもらいに行く学生が増えました。これはわかりやすい一例ですが、ゲストスピーカーの話から学生はさまざまなことを学んでいくと実感しました」。

今後も、ゲストスピーカーの充実に力を入れていきたいと鈴木先生。「魅力的なゲストスピーカーに来ていただくこと、そして学生の興味を引くテーマをお話いただくこと、やはりこの2つが最も重要と考えています。また、いくら人気が高くても、5年も6年も同じスピーカーを継続するよりは、新しい方に次々ご登壇いただきたいですね。簡単ではありませんが、常に情報のアンテナを張り巡らし、航空業界に関わる新しいニュースがあればそれに関わる方にこれからもコンタクトを取っていくつもりです」。

また今後は、講義の中に学生との意見交換や学生同士の議論なども取り入れていきたいという。「学生アンケートでも、周りとの意見交換をしたいという要望があります。そこで、私が担当する回ではなるべく学生に質問する機会を設けるようにしていますが、180人という大人数の前で学生が自分の意見を話すのはなかなかハードルが高いとも感じています」。早稲田大学には、Web版クリッカーの「わせポチ」もある。「わせポチ」であれば、大人数の意見を瞬時に集約してグラフや表にまとめることが可能で、今後はそうしたツールの活用も検討していく意向だ。

